のぞいてみよう！せんだいの歴史　暮らし編

仙台城下の防火活動

仙台市博物館　学芸普及室長　水野　沙織

第11回

仙台城下の火事

「火事とけんかは江戸の華」と言うように、江戸の町は火事が多く、消火にあたる町火消しも有名ですが、木造建築が中心だった江戸時代は、どの城下町でも火事は身近な災害でした。

仙台城下でも江戸時代を通して、百戸以上が焼失する大規模な火災が四十件ほど記録されています。火事は、旧暦二月・三月（現在の三月・四月）に集中しており、火元の約八割は町屋敷と武家屋敷でした。また、城下の地形や風向きの影響により、北四番丁以南の城下中心部が被害を受けることが多かったようです。

火事への備え

火事予防には、日頃の心がけが重要でした。

仙台城下の武家地では、屋敷や小路での花火の禁止、火消し道具の日常的な手入れ、屋敷周りの堀の水が滞らないようにすることなど、日常的に守るべきことが定められていました。さらに、近所で出火した際には三丁（約三三〇メートル）四方の屋敷の者が駆けつけて消火すること、風下の屋敷は防火に努めることなど、火事の際の行動についても決められています。

町人地においても、日頃から火の用心を心がけ、火消し人足を出すこと、水路にごみを掃き入れないことなどが定められていました。

また、出火を知らせる火の見櫓（ひのみやぐら）は本鍛冶町に置かれ、江戸時代中期に勾当台へ移されました。亀岡八幡宮、向山虚空蔵堂には出火合図の鐘が設置され、火事が発生すると、三カ所で鐘を激しく突いて城下に知らせていたそうです。

火消し出動！

仙台城下でも江戸と同じく町火消しが組織されていました。江戸時代中期に整備された火消しの規則によれば、澱町・支倉町・亀岡町・八幡町は仙台城のある川内の消火を担当し、柳町は藩所有の馬を追廻へ避難させる役目でした。この五町を除いた町々が大町通りを境に南北に担当を分け、実際に消火活動にあたりました。

火事が起きると、武士である武頭（ぶがしら）が町火消しと火消しの足軽を率いて消火に当たり、水を掛ける役、水を運送する役、水路を確保する役など、火事場での作業や着衣などが細かく決められていました。そして、鎮火すると拍子木（ひょうしぎ）を鳴らして伝えたそうです。

しかし、実際の火事現場では、火事場に出勤しない火消しがいて決められた人数の火消しが動員できなかったり、大火事では人手が足りず、小火事では人出余りを起こしたりと、規則が守られず消火に手間取っていたようです。そのため、火消しの規則は次第に厳しく詳細な内容になっていきました。

起きてしまっては元に戻らない火災。私たちも火の始末や、出火した時の対応について、日頃から心がけておきたいですね。

写真　勾当台に設けられた火の見櫓
「仙台城下絵図」文久2年（1862）9月　仙台市博物館蔵

仙台市史　全32巻　発売中！

原始から平成元年までの仙台の歴史をわかりやすく紹介！
「通史編」のほか、古代から現代までの歴史資料で構成される「資料編」、特定のテーマを詳しく掘り下げた「特別編」、「年表・索引」があります。

ピックアップ紹介

通史編4 近世2
A5判/オールカラー/603ページ　3,143円（税込）
伊達騒動にはじまる江戸時代中期の藩政と、仙台城下や村々の様子を紹介しています。上記で取り上げた「火消し」についても、制度や事例をより詳しく知ることができます。

既刊紹介や購入方法は博物館ホームページでご案内しています。

仙台市博物館 SENDAI CITY MUSEUM
▶博物館ホームページ　仙台市博物館　検索
▶博物館ツイッター　@sendai_shihaku
▶お問い合わせ　〒980-0862 仙台市青葉区川内26番地〈仙台城三の丸跡〉
TEL:022-225-3074　8:30-17:15　※土・日・祝休日を除く
※当館は現在、大規模改修工事のため休館しています。令和6年4月に再開予定です。